無駄な配車が解消
将来は現場の映像も

佐倉エスオーシー

佐倉エスオーシー（千葉県佐倉市）は現在、『最適配車システム』を導入して、配車効率の大幅な向上を図っている。GPSを利用した動態管理システムは、今年の四月より稼働しているが、それに出荷管理システムと連動させた日工の『計画太郎』を新たに設置、十月より一歩先んじた配車管理を実現させた。金塚喜美男専務は、最適配車システムについてこう語る。

「GPSは確かに便利で、有効性も高いが、当社は、それにプラスアルファを加えた配車管理システムを確立したかった」同社の最適配車システムの概要はこうだ。

ミキサ車には端末が搭載され、工場側のセンターには、大画面のパソコンがある。常時、稼働しているミキサ車の位置情報は画面上で一目瞭然。現場に向かっている車、帰社途中の車が矢印で表示される。必要に応じて部分拡大も自由だ。

「それはGPSで出来る。当社のは、配車計画表も一緒に組み込まれているので、それにしたがって、何時何分になったら、ことは出荷しなさいよと、出荷指令が出る。ピッチ、数量が計算されたソフトも入っている。万が一、当日になって出荷計画に変更が出た場合でも、グラフ、表が画面上に出て、シュミレーションが簡単に出来る。必要な台数がわかるから、傭車の台数も、増減に応じてすぐに手配できます」一方、現場の方では、ミキサ車の運転手が操作するレバーの動きに応じて、生コン排出中、排出終了などの情報が把握できる。

「既存の動態管理は、ミキサ車の動きしか把握出来ないが、これは待機しているのか、荷降ろしたのか、終了したのか、それがわかる。この点が大きいですね」

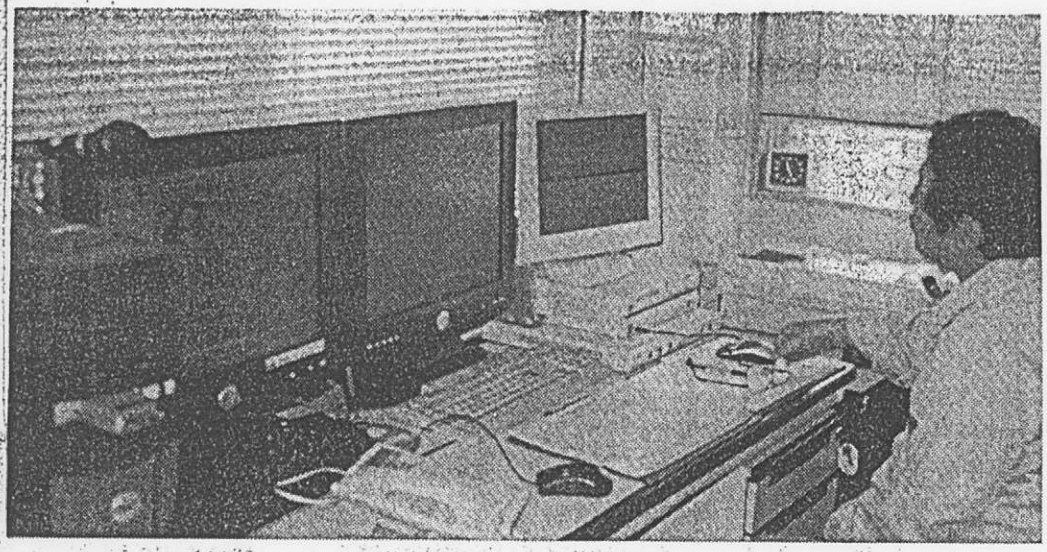
ミキサ車の位置情報は現在は三分に一回検索している。運転手は何もしない。

金塚専務

「相応の通信料がかかりますし、そのペースで十分です」

同システムの最大のメリットはこうだ。

「無駄な配車をしないですむようになったこと。通常、人間がやっていると、出荷係は余分に配車してしまう。それで現場に、過度に溜めてしまうことが出てくる。また逆に切れることもある。この仕事にはどうしてもそういう波が付きものだった。そうしたことが、画面を見ながら修正、改善できる。また現場での実際のピッチがわかるから、修正がかけられる。とにかく出来るだけ、切らさず溜めず、という形を作ることが大切です」

金塚専務が描く将来像は次のようなものだ。

「もっと見やすい画面にしたい。それと指令に音声をいれる、といった機能を付与してより高い使い安さを追求したい。ミキサ車と基地局が通信回線でつながっているわけだから、これを利用しない手はない。たとえばコンクリートの性能のデータも基地局で即時に把握できるようにする。そんなことも可能になったら、と思う。さらには、ミキサ車に搭載した端末を通じて現場の映像が基地局で見られる。そういう時代が来ると思います」